

令和二年度 授業改善推進プラン<国語科>

大田区立大森第十中学校

○国語科における令和元年度授業改善プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・成果

- ① 第3学年では、前年度に目標値と同程度にとどまっていた全体と基礎が目標値を上回る結果となった。漢字の読み書きや、言葉の単位などの復習に重点的に取り組んだ成果が現れている。
- ② 「書くこと」と「読むこと」は全ての学年で目標値を大きく上回った。文章中の表現を根拠に答えを導き、それをふまえて意見を発表したり、記述したりすることを意識的に授業に取り入れた成果が現れている。

・課題

- ① 第1学年の「話す・聞く能力」については、正答率が59%と、目標値と同程度に留まった。重点的に授業で指導を行うと共に、毎日の授業の中でも発表の機会を意図的・計画的に設定し、その向上に努めている。しかし、内容を正確に聞き取る事に課題があるため、今後は正確に聞き取る練習を適宜行う必要がある。
- ② 「言語についての知識・理解・技能」は、全ての学年で目標値を上回ったが、第2学年では、3ポイントしか上回っていない。漢字や四字熟語、ことわざを中心とした基礎コンテストの実施や、辞書による意味調べを行うなど、語彙力をさらに増やす授業を実施する必要がある。

○国語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

		令和二年度結果		令和元年度結果		平成30年度結果	
第1学年	全体	△	/	/	/	/	/
	基礎	△					
	活用(思考・判断)	△					
	活用(表現力)	≡					
第2学年	全体	△	全体	△	/	/	/
	基礎	△	基礎	△			
	活用(思考・判断)	△	活用(思考・判断)	△			
	活用(表現力)	△	活用(表現力)	≡			
第3学年	全体	△	全体	≡	全体	△	/
	基礎	△	基礎	≡	基礎	△	
	活用(思考・判断)	△	活用(思考・判断)	△	活用(思考・判断)	△	
	活用(表現力)	△	活用(表現力)	△	活用(表現力)	△	

内容別結果の分析

- ・国語全体、基礎、活用（思考・判断）の正答率が、全学年とも目標値と同等を上回った。
- ・活用（表現力）は、第2、第3学年が目標値を上回り、第1学年が目標値と同等となった。
- ・第2、第3学年では、前年度を上回り、全ての項目で目標値を上回る結果となった。そのため、前年度の授業改善策とその実践に一定の効果があつたと考えられる。

観点別結果の分析

- ・「関心・意欲・態度」は、全ての学年が目標値を上回っている。
- ・「話す・聞く能力」は第1学年が目標値と同程度に留まっている。第2、第3学年は前年度より正答率が上がっている。
- ・「書くこと」は全ての学年で目標値を上回った。
- ・「読む能力」は全ての学年で目標値を上回った。
- ・「言語についての知識・理解・技能」は、全ての学年で目標値を上回った。しかし、全学年で漢字の読み書きには課題が見られる。
- ・第2、第3学年では、全ての観点で目標値を上回っている。

○調査に基づいた授業改善のポイント

1 「話す・聞く能力」を伸ばす

- 暗唱テスト、聞き取りテストの活用や授業内で自分の意見や考えを交流する場を設定したり、領域を意識した授業を行ったりすることで聞く・話す能力の育成を図る。
- ・重要なキーワードや5W1Hを意識して聞き取ることを指導し、話をきちんと聞き取り、根拠をふまえて自分の意見を伝える機会を意識して増やす。

- 2 「書く能力」を伸ばす。表現力を高める。
 - 作文指導の充実を図る。文章の構成を意識したり、根拠や具体例を挙げながら意見文を書かせたり、本文の表現を引用したり登場人物と自分の実体験を比較して感想文を書くなど、構成を意識して書くよう指導する。
 - ・ノートやワークシートに根拠をふまえて自分の意見を書く機会を増やす。
- 3 「読む能力」を伸ばす。
 - 多くの文章に親しませる。正確に内容を理解するために基礎的な文法を身に付けさせる。読書を推奨し、読解力の充実を図る。
- 4 「言語についての知識・理解・技能」を伸ばす。
 - 定期的に漢字テストを実施したり、辞書での意味調べを行うなど、語彙力をさらに増やす授業を継続する。

○国語科の授業改善策

- ◎漢字や四字熟語、ことわざを中心とした、言語についての知識・理解・技能の指導を充実させること、また国語 に対する関心を高めるために、
- ①全学年通して漢字小テストや漢字コンテスト、四字熟語、ことわざ暗記テストを活用する。
 - ②百人一首大会を始め、行事等と関連させながら関心・意欲を高める。
- また、授業においては、生徒が「分かった」という自己肯定感・達成感をもたせられるよう、指導の工夫・改善を継続する。
- 第1学年
単元ごとに意味調べを行ったり、四字熟語やことわざを暗記し語彙力を増やして、作文や発表等で活用する力を身に付けさせる。
- 第2学年
言葉の意味を文章の中で正確にとらえ、理解し、確実に読み取る力を身に付けさせる。また、読み取った内容をふまえて文章の構成を意識して自分の意見を書く力を身に付けさせる。また、漢字の反復練習や文法の基礎的な事項を復習させ、理解を定着させ、整った文を書くために生かす。
- 第3学年
新出漢字を状況にあった適切な形で用いる力を身に付けるほかに語彙力をさらに伸ばすために、授業において常用漢字の定着及び四字熟語・類義語・対義語など漢字の知識習得に取り組む。
- ◎各目的に応じて、必要な情報を読み取り、理解する能力を身に付けさせる。同時に、表現する力を高めるために、
- 第1学年
発問に対して、主体的に考え、キーワードを意識して自分で解答を書く習慣を身に付けさせる。
- 第2学年
書き手のものの見方や考え方がどのように表されているかなどを正確につかませ、それについて根拠をふまえて自分の意見をもたせる。
- 第3学年
書き手のものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を比較し、自分の考えを深めさせ、客観的な資料等を活用して自分の言葉で明確に表現させる。
- ◎「話す・聞く能力」の領域についての指導を充実させるために、全学年落ち着いた学習環境の中で他者の意見を聞き、かつ自分の意見を明確に伝えることができるようにする。
- 第1学年
情報を正確に聞き取るための具体的な項目を意識して聞き取らせる。また、相手にわかりやすく情報を伝えるための話し方の構成を考えさせる。
- 第2学年
他の生徒の発言を自分の意見を比較しながら耳を傾ける習慣を身に付けさせる。また、根拠をふまえて意見を発表するよう意識させる。
- 第3学年
授業において、他者と自己の考えを比べながら発表を聞いたり、意見を交流する中で考えを深めたりする場を増やす。また、実体験などの主観的な根拠だけでなく客観的な資料や数値を根拠に挙げながら、相手が納得するような話し方の構成を意識して話すことを意識させる。
